



里地里山再生プロジェクト

「里地里山・地域再生への挑戦－民間が創る公共」
5ヵ年計画のご提案

2009年 1月

株式会社 ネイチャースケープ

Introduction

この提案書は、**地域社会の独自性の再認識と再投下を通じた自然再生と地域再生**という社会的事業に関するものです。

民間セクタの有す資金・ノウハウを地域社会の有す実地のフィールドに持ち寄り、各地の自然環境・地域社会の再生・共存を図る環境経済の実現を目的とするプロジェクトです。

このプロジェクトは、「民間の手による公共政策の立案・実施」、「企業活動を通じた公共の利益の提供」、「一方向から双方向への人と自然の関係性の転換（『見る・触れ合う・消費する』から『再生する・活用する・共存する』）」、「自然再生による生物多様性の向上・確保」、「再生する自然を基軸とする環境経済による循環型・持続可能型の地域再生」といった要素を有しており、環境関連事業・社会貢献事業・CSR事業等企業のさまざまな事業として位置付けて頂けます。また、再生される自然環境や地域社会は、社会・経済情勢には左右されない持続的に底堅く安定して経済を支える基盤となり得るもので、経営環境の厳しい今こそ、将来を見据えた先行投資として捉えて頂けるかと存じます。

弊社では、このプロジェクトのコラボレーションパートナーを探しています。自社の事業としての事業委託、ハード・ソフト供与等、コラボレーションの形態は柔軟にご相談させて頂きたいと考えています。

このプロジェクトでは、単なる「社会貢献」ではなく、コラボレーションパートナーにも便益・ベネフィットを受け取って頂ける糸口をご用意しています。また、この提案書を“共に創る計画”とも位置付けており、コラボレーションパートナーの多彩な発想とアイデアによりアクティビティの創出を図ることもコラボレーションと考えております。

弊社は、企業理念の中で、自然環境や野生生物とある約束致しました。それは、人の耳には聞こえぬ彼らの声を人に伝わるよう代弁し、伝えた人との相互の理解・協力により彼らの棲み処を保全し再生するというものです。しかし一方では、人のくらしもまたないがしろにしてよいものではなく、人と自然とが折り合いのつくバランスを求める努力も必要です。このプロジェクトはまさにこの約束とバランスを具現化しようとするものです。

この提案書を手にとられ、心に響くところがありましたらコラボレーションパートナーとして手を繋いで下さい。また、この提案書を社内・社外にご紹介下さい。そうして頂けることで、彼らの声は、静かに少しずつ、しかし確実に広がり伝わっていきます。

2009年 1月
株式会社 ネイチャースケープ
代表取締役 中川 功

Index

プロジェクト概要

里地里山再生プロジェクトとは	P.	1
弊社の果たす役割と提供するもの	P.	2
プロジェクトの活用例	P.	3
環境系シンクタンクゆえの自然再生方策	P.	4
環境経済による地域再生	P.	8
5ヵ年の時間活用	P.	9
概略スケジュール	P.	10

プロジェクトの展開	P.	11
-----------	----	----

コラボレーションのスキームと形態	P.	12
------------------	----	----

コラボレーション企業のメリット	P.	13
-----------------	----	----

具体的コラボレーション例	P.	14
--------------	----	----

Google Earth・Map・Chromeの活用による視覚化イメージ	P.	17
--------------------------------------	----	----

システム展示のイメージ	P.	18
-------------	----	----

展示ブース解説パネル例	P.	19
-------------	----	----

推進体制	P.	21
------	----	----

弊社事業実績	P.	22
--------	----	----

再生サイト候補地	P.	23
----------	----	----

里地里山再生プロジェクト プロジェクト概要

里地里山再生プロジェクトとは

里地里山再生プロジェクトは、日本の自然環境の多くを占めながらこれまであまり顧みられてこなかった里地里山について、古よりこの環境を築き上げてきた在来の手法や先端的な環境共生型手法を用い、耕作放棄地や周辺の里山を、環境共生型の農業生産基盤として再生し、或は、この環境に生息していた生物の生息地をサンクチュアリとして再生するプロジェクトです。

このプロジェクトで手掛けるのは、耕地や里地里山の自然環境の再生のみならず、それらのワイズユースにより経済的便益の創出につなげるという環境経済による「主体的で自立型の地域再生」も含まれています。

云うまでもなく、地域社会は、労働力の提供者・消費の担い手として企業活動という経済にとって重要な要件を果たす存在です。その一方で、地域の自然環境を維持し、地域らしさ（原風景や文化・伝統といった独自性）を継承するという社会的にも重要な要件を果たす存在でもあります。

このプロジェクトは、地域社会を経済・自然環境・社会を支えるものと位置付け、ここに産・学・社の民間力を一度結集してみようという挑戦でもあるのです。

民間が創る公共

ところで、自然再生や地域再生は行政の行う領域—そんな声を時折耳にします。その理解は本当に正しいのでしょうか？

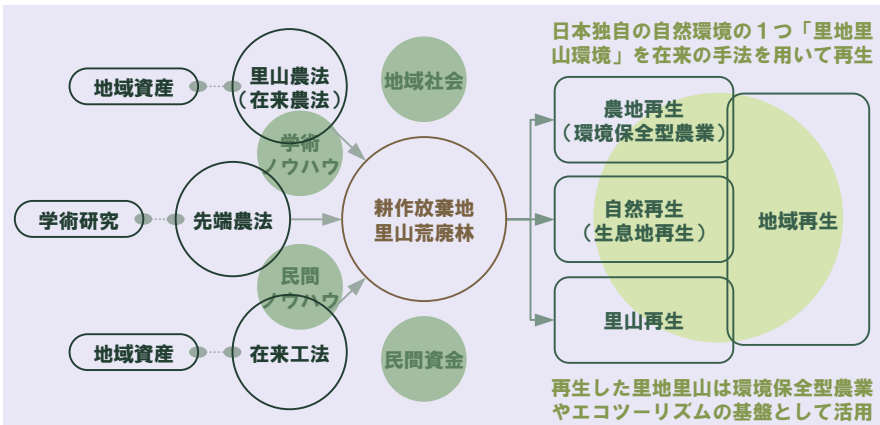
日本には、昔から「普請」と呼ばれる共同労役の文化がありました。地域社会の課題は地域が主体的に共同して解決するという文化です。この方法は、結果的に地域独自の社会・文化、また、地域に応じた自然環境を育むことにもなっていました。こう考えると、自然再生や地域再生は、元来、民間が行う領域なのかも知れません。

さて、今日の地域社会は？
地域が主体的に問題解決を図る姿は見られるでしょうか？地域性・独自

性は多様でしょうか？自然環境は豊かでしょうか？

要因はさまざまに考えられますが、共通していることは解決手段や資金に乏しいという現実です。しかし、一方では何とかしたいという内発的な潜在ニーズがあることもまた事実です。

こうした現実を前にして、私たち民間セクタにできることは何か？
地域社会の有す実地フィールドに民間セクタの有す資金・ノウハウ、これらを持ち寄って、外部からのほたらきかけで自然再生・地域再生へ向けたブレイクスルーを後押しすることも“できること”の1つではないでしょうか？



弊社の果たす役割と提供するもの

コラボレーションパートナーにご活用頂ける自然再生・地域再生のフィールド・メソッド・アクティビティ・シーンをご用意します
プロデュース・マネージメント（アクティビティ・プログラム・サイドイベントの企画、情報デザイン・発信、フィールド選定・評価、プロジェクト管理、フィールド管理、コラボレーションパートナー開拓・連携等）は弊社が担います

■フィールド

里地里山の再生事業を実施するフィールドです。
フィールドは、公募・独自開拓によるもので、現地評価にて、再生ポテンシャルや地域意向の評価、地権者・水利関係者等との折衝・調整を経て、再生事業の実施可否を判定しています。

■再生計画

対象地の概況・自然環境・生息種・将来活用に関する地権者の意向等を踏まえ立案する再生計画です。

■メソッド

- ・ **在来工法による自然再生メソッド**
自然物や生物作用を利用する環境負荷が少なく環境保全型農法やサンクチュアリ化に適した工法です
- ・ **在来農法による里地里山管理メソッド**
耕作に里山の恵みを活かす農用林活用により里地と里山を一体型で管理する里山農法です
- ・ **生息地保全による自然再生メソッド**
生物の生息要件の充足により、包括的・自立的・持続的な自然環境の保全・再生を図る方策です

■フィールドアクティビティ

- ・ **里地里山再生事業**
再生事業をはじめ、再生後の耕作・管理手法の指導・人材育成、生物モニタリング調査、事業評価等を行う地域＋登録会員協働による実践型事業です

・ 自然再生体験プログラム

自然再生に関わる実地活動に一般参加型・体験できる1Dayプログラムです

■モデル

・ 主体的・持続可能な地域再生モデル

地域社会でも実施可能な身の丈サイズで、自然環境の再生産をワイズユースするビジネスモデルを地域社会へ提示します

・ 地域資産活用型の地域再生モデル

自然環境・ノウハウ・文化・風習といった地域資産を活用し地域の独自性が活かされる地域再生モデルを地域社会と共同構築します

■シーン・機会・場

本プロジェクトでは、自然再生を実践する「コア事業」とその「プレ／サイドイベント」を実施し、これらを通じ、コラボレーションパートナーの製品・サービス等が必要とされるシーン、実践活用の機会、製品プレゼンテーションの場を創出します。

プレイイベントは、主に一般投票フォトコンテスト等の双方向参加型イベントです。

サイドイベントは、一般参加でも自然科学系の専門的な調査研究が経験できる体験型プログラムやエコツーリズム等のイベントです。生物生息確認調査・生物分布調査・生態調査・里山農法の実証研究・生物一時保護退避等に参加できます。

プロジェクトの 活用例

用意されたフィールド・メソッド・アクティビティ・シーン、これらをどう活用・アレンジするか？

カンパニーユース（企業向け）

ユーザモニタ

自然再生の現場で必要とされるニーズ・トレンド・プロダクト・機能・仕様のリサーチ機会として
一部弊社購入も応談可

プレゼンテーション

一般参加・双方向型プレ／サイドイベント（ex.フォトコンテスト）等におけるプロダクトブース展示や使用機材のメーカー名・機種名の掲示等のプレゼンテーションの場として

CRM（Customer Relationship Management）

カスタマ協働型（フィールド実践）のクラブミーティングやイベントを通じたりレーション強化・需要喚起・リピート化の方策として

環境関連事業メニュー

環境関連事業メニューとして（自然再生、生物・生息地・多様性・生態系保全）

CSR活動メニュー

CSR活動メニューとして（自然環境、コミュニティ、公共政策）

GRIガイドライン（Ver. 3.0）対応

GRI（Global Reporting Initiative）サステナビリティリポーティングガイドライン（EC8・EN12～15・SO1・SO5）対応の実践プログラムとして

ESR対応

企業のための生態系サービス評価（ESR：Ecosystem Services Review）対応の実践プログラムとして

アカデミックユース（学術・研究機関向け）

総合政策コース

実フィールド・実社会における環境政策・地域政策の立案～実施カリキュラムとして

自然科学コース

自然再生の最前線におけるケーススタディ、自然再生に実際に携わるプロセスデザイン（再生計画立案～実践）、自然科学的な生息地保全の方策研究・実証実験等のカリキュラムとして

ポリティカルユース（公共機関向け）

研修プログラム

総合的な政策立案・実施の実地研修として

連携プログラム

自然再生・農地再生・環境保全型農法をテーマとした行政・博物館・教育機関との連携プログラムとして

コラボレーション

「こんな活用は？」「こんなアレンジは？」

夢・アイデアを形にする作業をコラボレーションで巻末の評価レポートにて受け付けております

環境シンクタンク の考える自然再生 方策

見る・触れ合う・消費する から
再生する・活用する・共存する へ

自然保護・環境保全から自然再生へ

地域の独自性を尊重し、自然・生物による自己再生と持続可能性を促す鍵

1. 在来種・地域種
2. 生息地保全
3. 在来的手法
4. 耕作放棄地

■「在来種・地域種」による自然再生

**実施する方策と
そのメリット** | 現存植生・潜在植生・地域在来種・地域在
来個体群による自然再生

- ・日本・地域の特性・風土に応じた方策
- ・科学的・学術的な根拠に基づく方策
- ・日本・地域の在来・固有の生物種の尊重
- ・人為的管理：環境安定以降は極小化・不要化

**実施しない方策
とその理由** | 外来種・栽培種・地域移入種による植林・
緑化・放流・ビオトープづくり

- ・在来の自然環境・生態系の攪乱・破壊の可能性（過失・故意を問わず）
- ・自然環境の地域差異が縮小し、自然環境の均一化・モノトーン化が進行し、生物多様性を減退・破壊
- ・感染症・GMO（遺伝子組換え品種）による生物汚染・遺伝的汚染の可能性
- ・ビオトープの正しい意味の普及のため
- ・人為的管理：要、期間：永続的、コスト：高



©Naturescape®・Nikon

■「生息地保全」による自然再生

実施する方策とそのメリット

当該環境に生息することが自然な多くの生物種について、その生息に必要な環境要件を充足し、あとは自然の自己再生に委ねる

- ・食物連鎖や寄生・共生関係にある相関生物種をも含めた包括的な保全・再生方策
- ・結果として、生態系・生物多様性の保全・再生に
- ・自然再生の主体性・自立性・持続可能性を促進

実施しない方策とその理由

人為による過度の環境創造

人が選択する特定の生物種（ex. 絶滅危惧種等）のみの再生

人為による保護・増殖・移入

- ・自然再生においては人為によらず生物の再生力を用いることが基本的なベースライン
 - ・人為により創造されるものの多くは人為による管理を要し、投下される人為の大きさに比例し管理の困難さも増加
 - ・特定種のみ再生・増殖とその自然界への放出は、生態系バランスの崩壊や生態系成立・存続を脅かす要因となる可能性
 - ・特定種の定着においても、結局は、生息要件の充足があわせて必要
 - ・自然界への放出でなければ、永続的な飼育が必要
 - ・上記同様、生態系バランス、或は、生態系そのものの崩壊させる要因となる可能性
- ※自然の自己再生力のみでは解決し得ない場合の最終手段としては有用



©Naturescape®・PENTAX



©Naturescape®・PENTAX



©Naturescape®・PENTAX

■「在来的手法」による自然再生

実施する方策と
そのメリット

地域で育まれた在来手法（農法・工法・資材）

生態系重視の先端技法（IPM・IBM等）

- ・生物作用や自然物を利用する農法・工法
 - ・共存型・共生型・循環型・持続可能型・低環境負荷メソッド（生物作用を利用する一方で生物に生息環境を提供）
 - ・アダプティブアプローチ（順応的でゆっくりとした環境改変）
 - ・新たな汚染源となることはない（地域環境の一部である自然物を利用）
 - ・人為の跡が判別できない程自然景観上も環境と調和
 - ・長い時間をかけ地域の自然風土に育まれた実績
 - ・低コスト
 - ・在来の生物・生態系の作用を利用するという点で、在来手法と同様のメリットを有す
- ※IPM：Integrated Pest Management
総合的病害虫管理
- ※IBM：Integrated Biodiversity Management
総合的生物多様性管理



石組みによる落差緩衝



素掘りの土水路



田越し灌漑

■「耕作放棄地」における自然再生

里地里山環境の現状	・土地利用の近代化に伴う里地里山環境（林地・湿性域・水域）の不可逆的な縮小 ・耕作放棄に伴う里地里山環境（日本の自然環境の多くを占める2次自然）の荒廃と生態系の消失 ・耕作放棄に伴う中山間地域の衰退（原風景の消失、過疎化、地域間格差）	
耕作放棄地選択の理由	現状分析（経済側面）	経済的便益はほぼゼロ（現役の生産基盤ではない） ・本プロジェクトの目的内であれば使途制約を受けない ・失敗が許容される（害虫被害等の耕作阻害要因が生じても経済的便益はプラス：現状はゼロ）
	現状分析（環境側面）	里地里山環境としてはこれ以上の悪化の余地がない ・再生に伴う周辺営農地環境への悪影響は小さい
	社会的ニーズの分析	高い（地域社会・日本社会に受け入れられやすい） ・地権者・地域ニーズ：荒廃防止・環境整備・獣外防除に対するニーズ ・一般の社会的ニーズ：原風景・景観・自然環境の再生・保全、安全性の高い生産基盤、農地の多面的機能の維持等
	必要性・優先度の評価	人・自然の双方において重要かつ緊急な課題 ・かつては生物多様性の高かったエリアが急速に消失 ・農法・農地の近代化によるダメージも大きい ・対策がなければ今後10年で壊滅的
	成果・実効性の評価	具体的・実効的・顕著 ・具体的で実効的な成果が確実に期待できる ・事業前後・時間経過に伴う「目に見える成果」が顕著
耕作放棄地の再生・活用モデル	モデル1	環境保全型・循環型・高付加価値生産物の生産基盤 （利用主体：人→人＋野生生物）
	モデル2	野生生物のための生息地 ●サンクチュアリ機能（利用主体：人→野生生物） ●環境経済基盤（エコミュージアム・グリーンツーリズム等） （利用主体：人→野生生物＋人）

環境経済による 地域再生

里地里山の再生プロセス・再生した里地里山を地域再生の契機として三段活用

■自然再生プロセスを「地域の価値を再認識する・地域に対する誇りを取り戻す」作業へ

Hop/
できそう

地域で慣れ親しまれた在来手法を使う
“特別なモノ”ではなく、あえて“身の丈”サイズの手法を使う

- ・地域で慣れ親しまれた在来手法（農法・工法）を自然再生メソッドに用い顕著な成果を生むことでその有用性を顕示
- ・地域に育まれた在来（智慧・先人・古老・伝統・文化等）＝地域資産との価値認識・地域に対する誇りを内包化
- ・「在来＝時代遅れ・たいしたことはない」を打破
- ・「在来＝身近・身の丈」を逆利用
- ・自分たちでも“できそう”を地域に再生

■外部が「して見せる」から地域の「普請（主体的な労役）」へ

Step/
できる

社会的賛同の得やすい自然再生を方便に
外部が「して見せる」
参画できる場で地域も「してみる」

- ・地域アクションへの契機づくり
外部が「して見せる」可視化（現実の動き・成果）

地域も三人称で参画し「してみる」ことのできる
用意された場

- ・地域アクションを通じた意識変革
漠然：“できそう”→現実：“できる”
三人称：“できる”→一人称：“やってみよう”

■「自然環境」「普請」を等身大の「地域経済ブランド（新たな価値・環境経済）」へ

Jump/
やってみよう

「やってみよう」の具現化メニュー
＝新たな価値

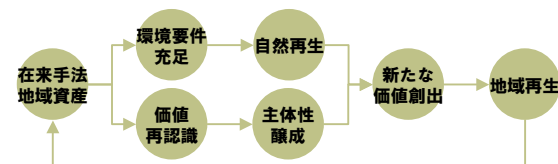
- ・環境保全型農法による生産物の高付加価値化
- ・地域の自然環境・在来手法に応じた在来特産物（生産物・料理法）の復活
- ・グリーンツーリズム（農山漁村ホームステイ・地域人材による地域ガイド）
- ・生産物・グリーンツーリズムを触媒とした地域産業連携
- ・主体的・自立的課題解決（普請・結）の実践とスタディケースの提供
- ・生物系・政策系研究機関への研究テーマ・実践フィールドの提供
- ・学術機関の講義・ゼミの受け入れ
- ・企業・自治体研修・視察の受け入れ（問題自己解決型題材）

5 ヲ年の時間活用

5 ヲ年・・・
それは長く、
しかし、
有益な時間

このプロジェクトは、社会的課題の解決策としてのスパイラルを創出するものであるがゆゑに、その成果が可視化されるようになるまでには相応の時間を要す。

しかし、この相応の時間は、そのプロセスで、その後の自然環境や地域社



会の主体性・持続可能性
に必要となる実体的な成
果や精神的な意識醸成、
新たな価値創出といった

基盤を形成していくため
に有用で有益に活用され
る時間、そして、必要な
時間でもある。

■長い時間を逆手に

歩調を合わせることでできる時間的猶予

環境経済の鍵を握る自然再生と地域再生を同期させて
進行させるための時間

- ・自然再生の成果を新たな価値創出につなげ地域再生に活かす
- ・地域再生の成功から次の地域資産を新たに発掘

地域の精神的機運を醸成する時間的猶予

- ・成果を可視化するための時間
- ・「可視化された成果→潜在価値・潜在能力の再認識」を通じ、地域に対する誇り・地域の自信・主体性・自立を醸成するための時間

■息の長い取り組みである分

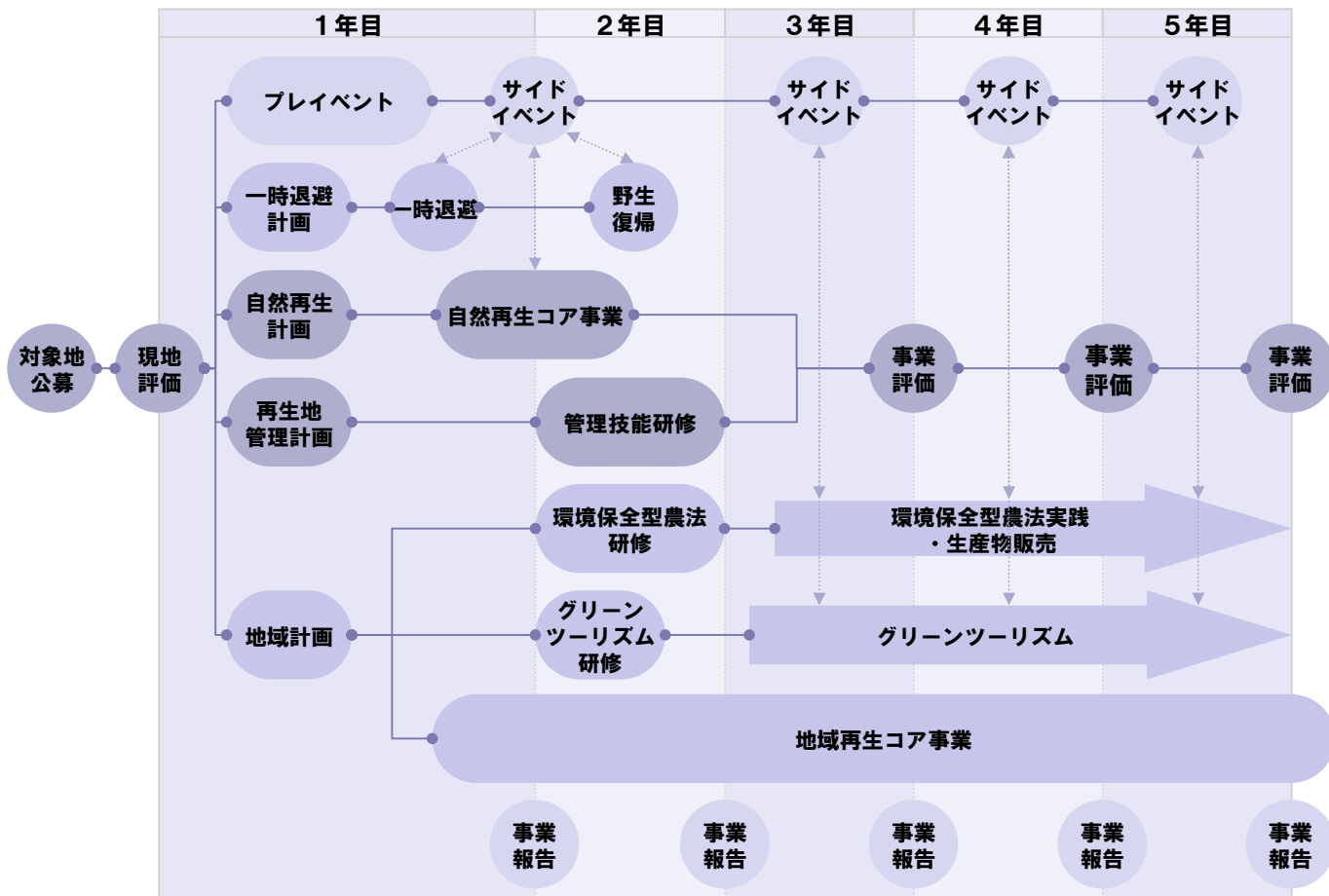
自然再生に用いる「生息地保全」と同じ考え方を地域再生にも

時間をかけてでも最初にまちがいのない方法で環境と
ブレイクスルーの契機を整えれば、あとは「主体的・
自立的に環境と経済とが両立する持続的・安定的な地
域基盤」が構築・維持される

景気変動に左右されないコア経済基盤としての地域社
会を創出

地域社会が取り組む生活密着型の社会的課題の解決・
実現は常に必要とされる社会経済活動であり、これは
経済情勢の変動とは無縁の底堅い基盤として経済を支
える存在となる

概略スケジュール（1 再生対象地につき）

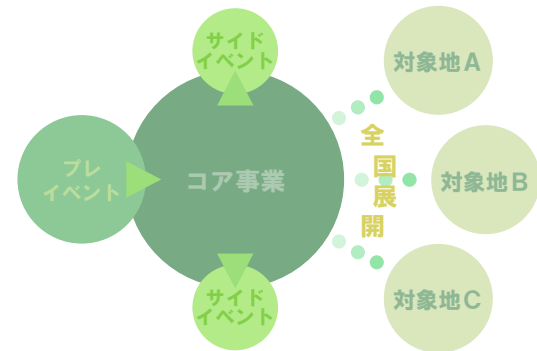


現地評価フェーズにおいて、再生ポテンシャルや地域意向を評価し、当該対象地における再生事業の実施可否を判定します。サイドイベントを含め、本プロジェクトの具体的なアクションプログラムはこのフェーズ以降に開始します。

里地里山再生コア事業・プレ/サイドイベント プロジェクトの展開

■展開

- ・里地里山再生プロジェクトはコア事業+プレイベント+サイドイベントのパッケージで運営し周知・集客効果を狙います
- ・全国より公募するコア事業対象地の各々にこのパッケージを適用しつつ全国展開（キャラバン）を図ります



■公募型コア事業

位置づけ 里地里山・地域再生の実動

- 公募対象**
- ・コラボレーションパートナー（弊社開拓・公募）
 - ・対象地（弊社開拓・公募）
 - ・市民参加（弊社開拓・公募）

周知方策 公募アナウンスによる周知効果

■参加型プレイベント（図：フォトコンテストの例）

- 位置づけ**
- ・コア事業対象地のフィーチャ
 - ・コア事業のプロモーション・資金確保

- 参加対象**
- ・コンペ参加+一般投票方式による双方向参加
 - ・コラボレーションパートナー（弊社開拓・公募）
 - ・展示/投票スペース提供・宿泊受入等の協力先企業・公的機関（弊社開拓）

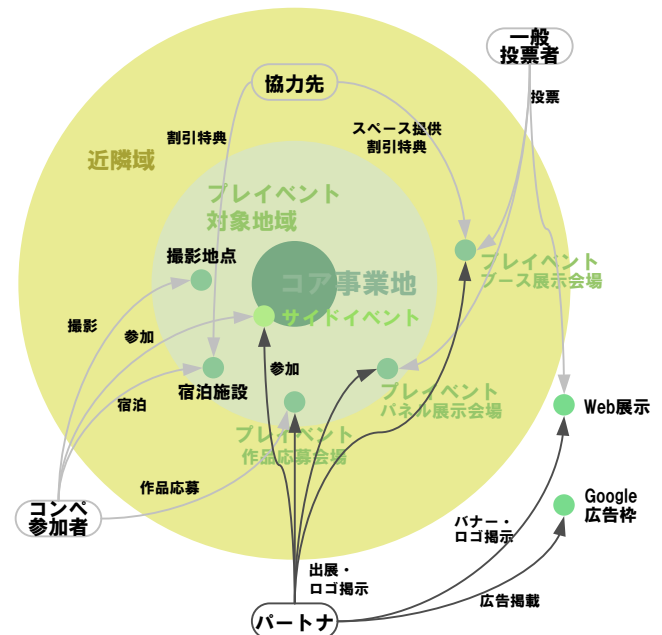
- 集客方策**
- ・双方向参加方式による参加者拡大
 - ・作品出展・一般投票の「場」を対象地近隣のSA・道の駅・公共施設・Webサイトに設置

■参加型サイドイベント

- 位置づけ**
- ・地域再生のためのコミュニティビジネスモデル
 - ・コア事業のプロモーション・資金確保

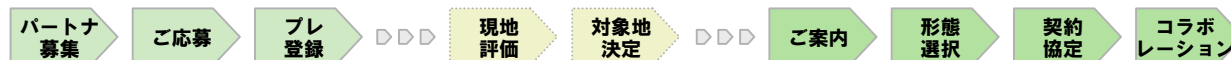
- 参加対象**
- ・コラボレーションパートナー（弊社開拓・公募）
 - ・市民参加（弊社開拓・公募）

- 周知方策**
- ・公募アナウンスによる周知効果
 - ・コラボレーションパートナー（Webサイト・店舗・カスタマクラブ）を通じたアナウンス



里地里山再生コア事業・プレ/サイドイベント コラボレーションのスキームと形態

■コラボレーションスキーム



1. コラボレーションパートナーは随時募集しています。最終ページの様式・Webフォームからプレ登録下さい。
2. 弊社現地評価を経て対象地を決定後、プレ登録頂いたコラボレーションパートナーへ対象地のご案内を致します。対象地に応じてご希望のコラボレーション形態を選択下さい。
3. 選択頂いたコラボレーション形態に応じ契約・協定を取り交わします。
※事業委託では概要計画書に基づく事業委託契約、参画・共催では概要計画書・作業分担計画書に基づく協定、スポンサーではスポンサー契約を各々取り交わします。これら契約・協定を取り交わすまではいかなる費用負担も伴いません。

■コア事業のコラボレーション形態

事業内容	形態	1 対象地あたり		
		期間	費用（／年・社）	対象
里地里山の自然・地域再生に関する社会的事業	事業委託	5 ヶ年	60万円	10社程度
		総額：3,000万円／5 ヶ年		
ネーミングライツ	スポンサー	5 ヶ年	60万円	委託企業より1社

■プレイベントのコラボレーション形態

※資金総額の一定割合を里地里山再生事業の原資とします。

事業内容	形態	プレイベント1回あたり		
		期間	費用（／社）	対象
里地里山の自然・地域再生に関する社会的事業	事業委託	イベント期間 (6ヶ月程度)	50万円	5社程度
			総額：250万円	
販促・広報出展等	参画		10万円	10社程度
			総額：100万円	
資材・機器・技術提供	共催		—	5社程度
ネーミングライツ	スポンサー		30万円	委託企業より1社

■サイドイベントのコラボレーション形態

※資金総額の一定割合を里地里山再生事業の原資とします。

事業内容	形態	サイドイベント1回あたり		
		期間	費用（／社）	対象
里地里山の自然・地域再生に関する社会的事業	事業委託	1日	15万円	5社程度
			総額：75万円	
販促・広報展示・CRM等	参画		5万円	10社程度
			総額：50万円	

里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント
コラボレーション企業のメリット

	メリット	概要	事業委託	参画共催
里地里山再生コア事業	環境事業・社会的事業への学術的支持	日本・地域の自然環境・生態系に負の影響を与えない手法による自然再生事業としての学術的支持 学会共同発表（自然科学・農林・環境社会学・政策分野）	○	—
	継続的・実効的社会的事業テーマ・事業メニュー	一過性のイベントにはない継続性・実効性 自然・地域の再生プロセスを時系列でモニタリングでき成果の見える事業	○	—
	ネーミングライツ	再生地呼称の設定（ex. ○○の棚田） 再生地への掲示板設置（呼称・企業名）・Webサイト開設	○	—
	イメージ戦略・広報・提供TV番組のテーマ・素材	自然環境・地域の再生プロセスをモニタリングした記録・映像を用いた広報・TV番組作成	○	—
	製品・技術の環境側面への実践 投下機会	製品・技術の再生地における優先的使用 実地における活用事例	○	—
	CRMの構築・強化	カスタマ協働型のクラブミーティング・イベント等の機会	○	—
	GRIサステナビリティリポート ングガイドライン対応	GRIガイドラインの定める環境・経済・社会のパフォーマンス指標の向上（EC8・EN12～15・SO1・SO5）	○	—
	ESR企業のための生態系サービス 評価対応	生息地保全型自然再生事業を通じた生態系サービスの向上	○	—
	社員研修機会	プロセスデザイン（計画立案・事業実施・事業評価・収支管理）実践の問題解決型の研修プログラム（弊社企画）	○	—
プレ／サイドイベント	ネーミングライツ	イベント名称設定（ex. ○○○○○ Naturescape）	○	—
	社会的事業の認知度向上	本プロジェクトの自社事業としてのプロモーション	○	—
	製品・技術の活用事例	社会的事業をサポートする製品・技術事例	○	○
	広告・宣伝・展示機会	展示会場・Webサイトにおける製品・技術の展示	○	○
	展示ブース解説パネル展示	展示会場における製品・技術の使用箇所を解説したパネル展示	○	○
	モニター機会	製品・技術のモニターユーザへの貸し出し	○	○
	CRMの構築・強化	カスタマ協働型のクラブミーティング・イベント等の機会	○	—
	2次著作物の広報素材化	応募作品を2次著作物として広報素材等に使用	○	—

里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント 具体的コラボレーション例（希望内容）

■対象：Google株式会社殿

弊社提供可能なもの

- 社会的事業におけるGoogle Earth・Google Map・Google Chromeの活用事例（参照P. 16・17）
- 広告収益
AdWords等広告枠分（下記＊1）
- 広告掲載社実績
貴社以外の里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント事業委託企業分（下記＊1）
- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント事業委託企業のメリット（参照P. 13）
- 展示ブース解説揭示
展示会場における製品・技術の使用箇所を解説したパネル展示（参照P. 18・19）

貴社にご検討頂きたいもの

- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベントへの事業委託
- AdWords等広告枠のご提供（弊社一括負担・←＊1）
 - ・里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント用
 - ・貴社以外の里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント事業委託企業用※事業委託企業のメリットとしてのAdWords広告枠
- Google Earth・Google Map・Google Chrome技術支援
※現時点で特段の必要性はないが、為念
- 貴社サイトにおける本プロジェクト・コア事業・プレ／サイドイベントスケジュール紹介（貴社事業として）

■対象：電力各社殿

弊社提供可能なもの

- 社会的事業事例・ソフトの提供
鉄塔プロジェクト～点と点を線へ・線をコリドへ
 - ・送電線鉄塔用地（林地）における落葉樹林再生事業（参加型、在来落葉堅果類の育苗・植樹）
 - ・送電線鉄塔用地（耕作放棄地）における復田・サンクチュアリ・湿地創出事業（参加型、在来農法・工法の実践）
- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント事業委託企業のメリット（参照P. 13）

貴社にご検討頂きたいもの

- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベントへの事業委託
- 送電線鉄塔用地（林地・耕作放棄地）の無償貸与、及び、地権者のご紹介
※地権者折衝は弊社にて実施
- 貴社サイトにおける本プロジェクト・コア事業・プレ／サイドイベントスケジュール紹介（貴社事業として）

里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント
具体的コラボレーション例（希望内容）

■対象：アウトドア用品メーカー殿

弊社提供可能なもの

- 社会的事業事例・ソフトの提供
 - ・アウトドアグッズ利用促進機会・CRM機会としてのフィールドアクティビティ・体験型プログラム・エコツーリズム
- プレ／サイドイベントにおける出典・展示ブース
- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント事業委託企業のメリット（参照P. 13）

貴社にご検討頂きたいもの

- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベントへの事業委託
- 貴社カスタマ協働型のクラブミーティング・イベント等によるご利用
 - ・CRMとしてのコア事業・サイドイベント参加
- 試供・モニタ貸出（一部弊社購入も応談可）
- プレ／サイドイベントにおける出典・展示
- 貴社サイト・店舗における本プロジェクト・コア事業・プレ／サイドイベントスケジュール紹介（貴社事業として）

■対象：映像機器製造メーカー・写真誌出版社殿

弊社提供可能なもの

- 社会的事業事例・ソフトの提供
 - ・映像機器利用促進機会としてのフォトコンテスト企画・フィールドアクティビティ・体験型プログラム・エコツーリズム
 - ・フォトコンテスト共催（テーマ：コア事業地の自然・生物・人・景観、一般投票による双方向参加型）
 - ・応募・展示・投票Webシステム
 - ・フォトコンテスト応募作品の2次利用
 - ・「Naturescape®」商標使用（共催イベント限定）
- プレ／サイドイベントにおける出典・展示ブース
- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベント事業委託企業のメリット（参照P. 13）

貴社にご検討頂きたいもの

- 里地里山再生コア事業・プレ／サイドイベントへの事業委託
- フォトコンテスト共催（テーマ：コア事業地の自然・生物・人・景観、一般投票による双方向参加型）
- コア事業・フォトコンテスト参加者へのモニタ貸出（一部弊社購入も応談可）
- 貴社サイトにおける本プロジェクト・コア事業・プレ／サイドイベントスケジュール紹介（貴社事業として）

里地里山再生コア事業・ブレ／サイドイベント
具体的コラボレーション例（希望内容）

■対象：社有林・社有地をお持ちの企業

弊社提供可能なもの

- 生物多様性貢献型社有地活用のサテライト事例（※）
 - ・社有地内における自然再生
- 社会的事業事例・ソフトの提供
 - ・社有地内におけるCRM機会としての参加型フィールドアクティビティ・体験型プログラム・エコツアーリズム
- 里地里山再生コア事業・ブレ／サイドイベント事業委託企業のメリット（参照P. 13）

貴社にご検討頂きたいもの

- 里地里山再生コア事業・ブレ／サイドイベントへの事業委託
- 社有地（林地・耕作放棄地）一部の無償貸与
- 貴社サイトにおける本プロジェクト・コア事業・ブレ／サイドイベントスケジュール紹介（貴社事業として）

※サテライト事例づくりを目的とする試用導入レベルを想定しています
本格導入・展開にあたりましては、別途、弊社環境設計メニューNaturescape® eco design（付録参照）にて承ります

■対象：アグリビジネス参入をご予定の企業

弊社提供可能なもの

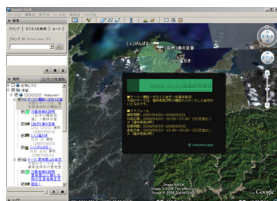
- 環境保全型生産基盤のサテライト事例（※）
 - ・自然再生メソッドを用いた生産基盤整備・環境保全型農法の実証実験支援
- 社会的事業事例・ソフトの提供
 - ・生産予定地内におけるCRM機会としての参加型フィールドアクティビティ・体験型プログラム・エコツアーリズム
- 里地里山再生コア事業・ブレ／サイドイベント事業委託企業のメリット（参照P. 13）

貴社にご検討頂きたいもの

- 里地里山再生コア事業・ブレ／サイドイベントへの事業委託
- 生産予定地一部の無償貸与
- 貴社サイトにおける本プロジェクト・コア事業・ブレ／サイドイベントスケジュール紹介（貴社事業として）

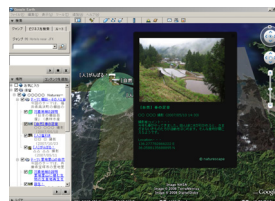
※サテライト事例づくりを目的とする試用導入レベルを想定しています
本格導入・展開、及び、環境保全型農法コンサルティングにつきましては、別途、弊社環境設計メニューNaturescape® eco design（付録参照）にて承ります

このプロジェクトでは、Google Earth・Google Map・Google Chromeを効果的に活用し視覚化を図ります。
Google Mapと弊社webGIS連動、cgiによるkmlファイル自動生成、及び、Google Earthポップアップからのcgi起動は、既に自治体・研究機関等のサイトにおける構築・稼動実績を有しています。



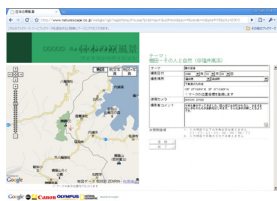
Google Earthを用いたサイドイベント案内

- Google Earthにより対象地範囲を視覚的に地図化
- ポップアップによりコンペ詳細情報を配信



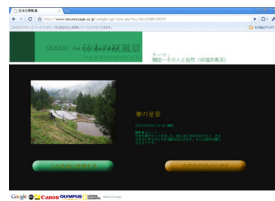
Google Earthを用いた応募作品の展示＆一般投票（フォトコンテスト用）

- ブース展示・パネル展示会場に募作品展示・一般投票用端末設置
- Google Earthにより募作品展示
- Web展示もGoogle Earthにより作品展示



Google Mapを用いた応募作品登録webGIS（フォトコンテスト用）

- Google Mapにより撮影地点を特定しwebGISにて作品応募
- Google Map連動webGIS構築実績あり
- Google Chrome対応済
- 応募締切後、全応募作品分のkmlファイル自動生成（実績あり）

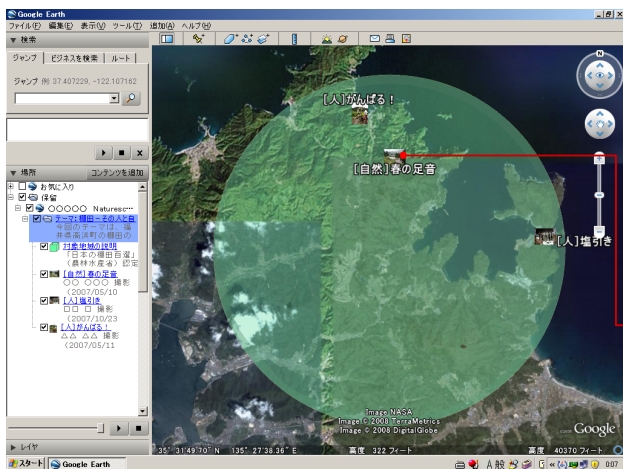


cgiプログラムによる投票システム（Web対応・フォトコンテスト用）

- ブース展示・パネル展示会場に募作品展示・一般投票用端末設置
- Google Earthポップアップ中リンクより一般投票システムへジャンプ

プレ/サイドイベント システム展示のイメージ

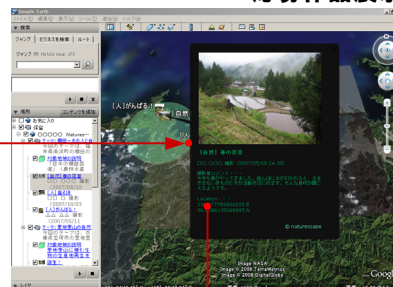
ブース展示、及び、Web展示には、インパクト・一般投票への誘導・展示スペース等の観点よりClient-Server型システムによる展示を行います。展示システムは一般投票システムとシームレスに連動します。



ブース展示・Web展示

- Web対応PCにてGoogle Earthを用い、対象地範囲・応募作品展示を視覚的化

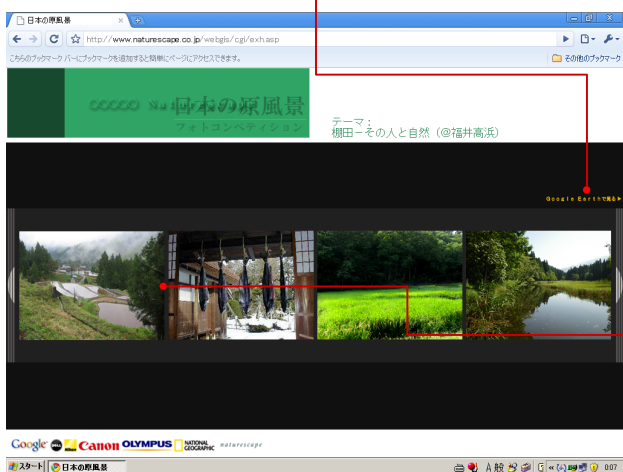
応募作品展示



Web展示

- Webサイト上で応募作品を一覧形式で展示
- WebサイトからGoogle Earth・一般投票システムへワンクリック切替

一般投票



プレ/サイドイベント

展示ブース解説パネルイメージ（作品応募ブース）



プレ/サイドイベント

展示ブース解説パネルイメージ（作品展示&投票ブース）



里地里山再生プロジェクト 推進体制

■産官学民連携

弊社では、シンクタンク・コンサルティング・調査研究等の業務を通じ、さまざまな産官学と連携を図っています。さらに、特に重要なコラボレーションパートナーとはコンソーシアムを形成しています。

また、自社業務の他、社外においてもNPO参画等を通じ社会的事業に弊社ノウハウを提供しています。本プロジェクトでは、これら産官学民との連携やネットワークを通じプロジェクトの推進を図ります。

- 産官学連携・・・事業実績＋コンソーシアム
(参照P. 18)
- 市民連携・・・人材育成プログラム実績
(参照P. 18)
- その他の連携・・・社会的企業家NPO法人（理事参画）

■フェロー制度

里地里山再生プロジェクトでは、フェロー制度も設けています。自然再生が1つでも多く実現できるよう、本プロジェクトと同様の目的・手段・取組等を有す社外の人材や組織を公募し、技術・資金面でバックアップを行う制度です。

本プロジェクトの全国展開において、フェロー制度によるパートナーシップは、特に有益な役割と機能を果たすものです。

- フェロー制度・・・同一目的・同一手法を有す人材との連携
- | | |
|------|----------------------|
| 弊社 | ：計画立案・技術提供・事業評価・資金提供 |
| フェロー | ：実施委託 |

■シンクタンク・共同研究・自社研究

- 重要里地里山選定調査調査計画立案・統計解析支援（福井県）
- ツキノワグマ出没等位置情報解析（福井県）
- 復田・地域再生ビジョン構築（福井県）
- 宝塚市西谷地区湿原群保全・活用方策研究会コーディネート（兵庫県）
- 県立里山公園ランドデザイン（兵庫県）
- 県立里山公園ソフトデザイン（兵庫県）
- 県立里山公園先行的保全活動ソフトデザイン（兵庫県）
- 環境審議会（兵庫県）
- 野生生物保護管理運営協議会ワイルドライフマネージメント部会・絶滅防止部会（兵庫県）
- ひょうご環境学校事業アドバイザー（兵庫県）
- 環境政策事業評価（三重県・（財）三重県環境保全事業団・三重環境県民会議）
- 次世代webGIS受託研究（（財）日本科学技術振興財団・兵庫県立人と自然の博物館）
- 自然環境GISデータベース受託研究（（財）日本科学技術振興財団・福井市自然史博物館）
- 里地里山環境常設展示監修（福井県自然保護センタ）
- 全国海岸植物群落調査解析支援・自然環境調査支援（（財）日本自然保護協会）
- 野生生物保護学会シンポジウム講演
- GIS学会バイオリージョン分科会講演
- NPO法人ソーシャル・イノベーション・ジャパン設立記念シンポジウム講演
- 関西学院大学大学院リサーチコンソーシアム研究発表

■人材育成プログラム

- 丸山湿原保全リーダー養成ワークショップ企画・コーディネート（兵庫県）
- インターカレッジエコサマーキャンプ（兵庫県）
- 県立里山公園先行的保全活動コーディネート（兵庫県）

■システム開発

- 自然環境webGIS構築（兵庫県立人と自然の博物館）
- GISデータベース受託研究（（財）日本科学技術振興財団・福井市自然史博物館）
- ツキノワグマ出没ハザードマップ構築（福井県）
- 生物情報データベース構築支援（武生市）
- バーチャルミュージアム構築（福井県自然保護センタ）
- 自然史研究のための地名辞書GIS（NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク）
- レッドリスト検索システム（NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

■アプローチ中の再生サイト候補地

候補地	区分	フェーズ	指定等
福井県高浜町下	棚田	現地評価	若狭湾国定公園・日本の棚田百選（農林水産省）・重要里地里山30（福井県）
兵庫県三田市木器猪ノ倉	谷津田	事前調査	—
未定（福井県内）	未定	対象地解析中	東京大学・福井県・弊社共同研究事業

■再生事業実施中・実施済の再生サイト

兵庫県宝塚市境野	サンクチュアリ	再生済・運用中	県立里山公園（兵庫県）
兵庫県宝塚市境野	谷津田	再生済・終了	県立里山公園（兵庫県）

Naturescape® eco designは、生物多様性の保全や自然再生等について、野生生物の視点＋学術的な知見・手法から、実践的な一歩先をデザインします。

企業活動やCSR事業の中で「自然環境・野生生物・生態系の保全・再生」を行う

Naturescape® eco designは、そのための具体的な実践的なメソッドを提供することでこれをサポートします。

地球貢献にはコスト的に少しの負荷を伴いますが、それがそのままCIや広報のソースとして活用できるほか、企業活動そのものや創出される空間に「環境」「共棲」といった新たな付加価値を生み出したりもします。

地球貢献は、地球温暖化対策やリサイクル、ゼロエミッションだけではなく、さまざまな貢献施策の中には、生物多様性の保全・向上や自然再生もメニューに挙げられます*1*3。

Naturescape® eco designは、特にこの生物多様性の保全・自然再生の分野で、生息地再生を通じて、実践的なポジティブメソッドを提供するものです。

企業活動・CSR事業で自然再生・地域再生

社会的事業デザイン

social activity design

CSR事業や環境事業等に、自然環境・野生生物・生態系の保全・再生のための実践的メニューをデザインします。また、環境面にとどまらず、自然再生を地域再生につなげる社会貢献メニュー₂を構築することも可能です。

土木・建設事業の環境負荷を低減

グランドデザイン

ground design

土木・建設事業により消失・減少する野生生物の生息地の保全・再生・創出について計画し、生物多様性確保・環境負荷低減の方策を事業構想・計画段階からプランニングします。開発行為に限らず、現有の社有林・社有地の自然再生や有効活用においても適用可能なサービスです。

*1：GRIサステナビリティリポーティングガイドライン（Ver. 3.0）

環境パフォーマンス指標－生物多様性－EN12～15

*2：GRIサステナビリティリポーティングガイドライン（Ver. 3.0）

経済パフォーマンス指標－間接的な経済的影響－EC8

社会パフォーマンス指標－コミュニティ－SO1

社会パフォーマンス指標－公共政策－SO5

*3：企業のための生態系サービス評価（ESR：Ecosystem Services Review）

お問合せ先

株式会社 ネイチャースケープ

〒631-0044

奈良県奈良市藤ノ木台3-20-23

Tel : 0742-81-3556 (代表)

シンクタンク事業部 里地里山再生プロジェクト

<http://www.naturescape.co.jp/ssr/>

お問合せはwebサイト専用フォームから
が便利です

<http://www.naturescape.co.jp>

<http://www.naturescape.co.jp/ecodesign/>

返送先	Web	http://www.naturescape.co.jp/ssr/ → お問い合わせ → タイトル：里地里山再生プロジェクト評価レポート
	Fax	0742-81-3556

里地里山再生プロジェクトに関する評価レポート

ご覧頂きました本提案内容に関する評価にご協力下さい。

ご質問をはじめ、本提案内容をよりブラッシュアップするご相談・ご提案（アイデア）をお寄せ下さい。お寄せ頂きました内容につきましては、十分な検討をさせて頂き、一部は本計画に反映させて頂く他、Webサイトに掲載致します。

法人名		コラボレーション 形態に関するご相談・ご提案（アイデア）		
ご担当部署				
ご担当者名				
ご連絡先	〒			
	所在地			
	Tel			
	Fax			
mail				
詳細説明の要否		☐ 要 ☐ 否 ※ご希望の場合は、貴社にて説明させて頂きます ご担当部署・ご担当者名・ご連絡先をご記入下さい	フィールド・アクティビティの活用方法に関するご相談・ご提案（アイデア）	
ご質問				

本提案に関心を持って頂けそうなコラボレーションパートナー候補をご紹介します。

法人名	担当部署	担当者名	連絡先

里地里山再生プロジェクト コラボレーションパートナー プレ登録票

里地里山再生プロジェクトのコラボレーションパートナーとしてご登録頂ける場合は、本様式にご記入の上、上記までお送り下さい。

法人名			コラボレーション 形態	里地里山再生コア事業 ☐ 事業委託 ☐ ネーミングライツ プレイベント ☐ 事業委託 ☐ 販促・広報出展等への参画 ☐ 資材・機器・技術提供等の共催 ☐ ネーミングライツ サイドイベント ☐ 事業委託 ☐ 販促・広報展示等への参画 ※あくまで参考情報としてプレ登録段階でのご意向をお伺いするもので、正式なコラボレーション形態につきましては、対象地決定後、対象地に応じてご希望の形態を選択頂きます
ご担当部署				
ご担当者名				
ご連絡先	〒			
	所在地			
	Tel			
	Fax			
	mail			

返送先	Web	http://www.naturescape.co.jp/ssr/1100.html → コラボレーションパートナーにプレ登録（プレ登録専用フォーム）
	Fax	0742-81-3556